～家族の「いつか」を考える～知っておきたい葬儀相談セミナー

生前準備であわてない

上毛新聞社は12日、上毛ホールで「家族の『いつか』を考える～知っておきたい葬儀相談セミナー」（協賛メモリードグループ）の2回目を開いた。〝その時〟あわてないための生前準備がテーマ。ジャーナリストの見城美枝子さんの講演や葬儀コンサルタントの木野島光美さんのセミナーなどを行った。県内から180人が参加した。

生前にできること、しておきたいこと

見城美枝子さん　ジャーナリスト

生死の判断迫られる

最期の瞬間をどうするか―。最近経験した、身近な人の死で感じたことを話します。

TBSに入社したときの恩師がいました。その恩師は、最期の時を病院ではなく自宅を選びました。

体にチューブを何本も入れ、機械的に生きているという状態の「スパゲティ症候群になりたくない」という人は多いと聞きます。

わたしの義母も、そのように話していましたが、ある日転倒して、骨折。デイサービスに通いながら過ごしていました。

その後、だんだんと呼吸が苦しくなり、義兄は医師から、のどを切開してチューブを入れるよう緊急に迫られました。

義母は延命治療をしないよう、義兄ら5人の子供に伝えてありましたが、書面にして残してはいませんでした。エンディングノートなどに書いておけば、希望通りになったと思います。

医師は、口約束だけで延命治療をしなかった場合、時として訴えられることもあるそうです。義兄は医師から、「のどを切開しチューブを入れれば呼吸が楽になる。そのうち、チューブが取れ、普通に呼吸ができるようになるかもしれない」と言われました。

電話連絡を受けた兄弟たちも熟考できないほど、緊急でした。結果、延命治療を選択しました。

しかしその後兄弟たちは「母との約束は？　これから延々、生きるのか？　自分たちが年を取ってしまう」というさまざまな不安があったようです。

チューブから栄養を入れている義母の肌はきれいでした。床擦れを和らげるため、ホルモン剤が入っているのだそうです。義母は治療が終わり、病院が変わると間もなくこの世を去りました。

この間、義兄は義母の生死にかかわる判断を何度も迫られました。家族には「自分はどのように生きて、どのように最期を迎えるか」を文章にして残しておくべきだと感じました。

わたしには90歳の実母がいます。念願だった見城家の墓を建て、今は、元気なうちにと、洋服など身の回りのものを片付けています。でも、母に〝その時〟がきたら、自分を律することができるか不安です。

最後に、遺影のための写真は、「覚えておいてほしい自分」の写真を用意するとよいと感じました。

生前準備　実践編

～エンディングノートを活用しながら

木野島光美さん　グランディメモリー社長

希望を伝え 人生回顧も

家族葬とは

最近はさまざまな葬儀のスタイルがあります。今回は家族葬について質問が多く寄せられました。

家族葬は、何親等までを呼ぶといった定義はなく、家族を中心とした葬儀です。遺族が故人とゆっくりお別れできる、葬儀準備や会葬者の接待に追われない、自由な葬儀ができる、費用が抑えられる―などの良さがあります。

半面、会社関係者など広い範囲の人から、後々、連絡が入り、その対応に追われることもあります。

家族葬に対し、密葬は家族だけでしめやかに葬儀を行い、後日、本葬やお別れの会を開くものです。

無宗教葬は宗教者が来ない葬儀で、好きな音楽を流したり、焼香の代わりに花を手向けたりします。菩提寺とのお付き合いがある人で無宗教葬を希望される人は菩提寺のもと密葬を行い、後日、お別れの会を行うことができます。

ほかにも、海などに遺灰をまく散骨、お墓の代わりに木を植える樹木葬などもあります。

葬儀費用

葬儀にかかる費用の全国平均は231万円といわれています。そのうち、宗教者への読経料や戒名料を合わせたお布施の平均は54万円です。

また、葬儀以外にかかるものもあります。病院で亡くなった場合の入院費、遺体安置料、式場使用料2日分、お墓がなければ、お墓の費用もかかります。最近では、通夜と告別式を一日でする「ワンデー葬」も勧めています。

意思を残す

自分の意思を家族に残したり、ライフプランをまとめるのにエンディングノートが便利です。

葬儀のスタイル、このほか細部にわたる希望をエンディングノートにまとめ、家族に知らせておきましょう。自分の人生を振り返ることもできます。

葬儀はマナーも重要です。日本は仏式が多く、宗派によって焼香の作法が異なります。キリスト教などの献花は、花の手向ける方向が宗教者によって違うケースがあります。無宗教なら、花は右胸元で受け、茎を祭壇側に向けて、花を手前にして参列者に手向けます。

神道の玉ぐし作法は、左手に葉先を受け、手をもちかえ右に回転し、葉先を手前に向け供えます。

事前相談

どのような葬儀を執り行いたいか、事前相談は大切です。葬儀社は①家族葬から社葬まで実績のあるところ②近所の口コミ③ほかの葬儀で感じたスタッフの印象④葬儀の知識が豊富か、葬儀ディレクターが何人いるか⑤細かい見積もりを出してくれるか⑥内容の変更や解約をいつでもしてくれるか⑦保険から費用を充当してくれるか―を、ポイントに選びましょう。

花に包まれた現代的な祭壇を興味深そうに見る参加者

法律や税務　専門家に相談を

遺言と相続手続き

井上真之さん　司法書士法人NCP

最近は遺言書を作る人が増えています。遺言書がないと、故人の預貯金を勝手に引き出すことはできません。相続人全員の同意と印鑑が必要です。不動産の名義変更も同様です。

よく使われる遺言書は、自筆証書遺言と公正証書遺言の2種類です。有効ならどちらも効力は同じですが、日付の新しいものが有効です。

自筆証書遺言はすべて自筆です。パソコンや代筆は認められません。日付も「吉日」などではいけません。それに名前を記入し押印します。費用は掛かりませんが、死後、発見されない恐れがあり、時に相続人の間でトラブルが起こることがあります。

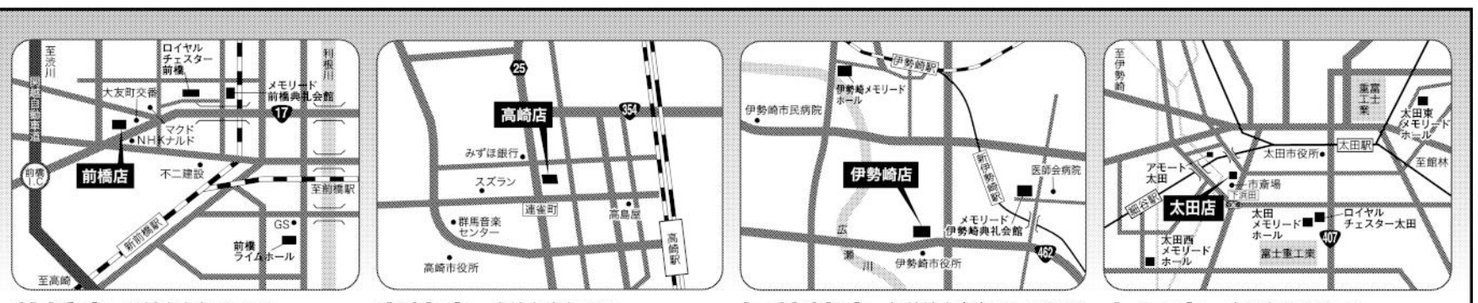
公正証書遺言は公証人と証人2人に見守られて、作ります。費用は掛かりますがトラブルは少ない。1度作れば原本を公証人役場で保管してくれます。費用は財産によって異なります。法律や税務など細かい点がありますので、専門家に相談しましょう。

主催／上毛新聞社
協賛／メモリードグループ
協力／お仏壇のはせがわ前橋店、日本香堂、ベイシアグループ　清閑堂、司法書士法人NCP、メモリード協力会

葬儀は事前相談の時代

相談無料｜経験豊富なスタッフが相談に応じます。

■葬儀 ■法事 ■返礼品 ■仏壇
■お墓 ■お盆 ■遺言・相続
■遺品整理 ■ハウスクリーニング
■不要品処分 ■冠婚葬祭互助会
■少額短期保険



前橋店　前橋市大友町1-5-5　TEL.027-253-4445
高崎店　高崎市連雀町34　TEL.027-327-9494
伊勢崎店　伊勢崎市今泉町2-418-28　TEL.0270-21-9494
太田店　太田市浜町66-41　TEL.0276-48-9494

市民葬儀相談センター　メモリードグループ
0120-45-1616（しごのいろいろ）　フリーダイヤル　※おかけになる場所・時間により、対応する店舗が異なります。
営業時間 10:00～18:00
http://gosouginet.jp

地域密着のニュースサイト

よんななニュース　検索
http://www.47news.jp/

■47都道府県52新聞社が総力を結集
■地方紙1万人のプロ記者が全国津々浦々くまなく取材
■地域の文化や活力を地元から紹介
■圧倒的情報量を持つ地方紙の信頼性

▶新聞社のコラム読み比べ
▶旬のテーマをコラムと関連記事で斬る「トピックス」
▶野球、サッカー、バレー、高校スポーツ
▶心なごむ「ホッとニュース」、日本全国食べ歩き「ニッポンのGOHAN」
▶子育て草の根情報
▶新刊本・音楽・映画のこだわり紹介
▶19歳の女優・谷村美月さんのエッセー
▶地域再生、裁判員、医療、学び…
▶写真で魅せる「山への誘い」、南極記者ブログ

Japan Press Network 47NEWS 日本が見える
（株）全国新聞ネット

47NEWS参加社　北海道新聞社、室蘭民報社、河北新報社、東奥日報社、デーリー東北新聞社、秋田魁新報社、山形新聞社、岩手日報社、福島民報社、福島民友新聞社、産業経済新聞社、日本経済新聞社、ジャパンタイムズ、下野新聞社、茨城新聞社、上毛新聞社、千葉日報社、神奈川新聞社、埼玉新聞社、山梨日日新聞社、信濃毎日新聞社、新潟日報社、中日新聞社、中部経済新聞社、伊勢新聞社、静岡新聞社
岐阜新聞社、北日本新聞社、北國新聞社、福井新聞社、京都新聞社、神戸新聞社、奈良新聞社、紀伊民報、山陽新聞社、中国新聞社、新日本海新聞社、山口新聞社、山陰中央新報社、四国新聞社、愛媛新聞社、徳島新聞社、高知新聞社、西日本新聞社、大分合同新聞社、宮崎日日新聞社、長崎新聞社、佐賀新聞社、熊本日日新聞社、南日本新聞社、沖縄タイムス社、琉球新報社、共同通信社